

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200630		
法人名	株式会社オレンジ		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	松戸市小山97-8		
自己評価作成日	令和6年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和6年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自宅での暮らしとおなじように穏やかに過ごせる家」という理念の下、少人数(1ユニット9名)の家庭的な環境の中、文字通り自宅で過ごしているようご支援させて頂いております。近隣の皆様との交流の場として認知症カフェを開催し地域に密着し、開かれたグループホームを目指しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームの理念である「自宅での暮らしとおなじように穏やかに過ごせる家」と日々の実践活動が一致している。職員は食事やケーキ作り、手作りのかるたの制作など利用者が自宅にいたら行うであろうと思われる活動を自主的に行えるよう支援しており、利用者は生き生きと過ごしている様に見受けらる。室内の廊下には利用者の手の届く高さにフックが用意され、そこでまず洗濯物を干し、それを屋外に干せるようになっている。また、玄関のたたきには高さの違う踏み台が二つ用意され、利用者が外出する際に無理のないようする等、きめ細かい配慮がなされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		事業者様で記入 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある		
		3. たまにある		
		4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、ミーティング等で職員と共有している。	玄関入口の正面に太い字体で書かれた基本理念が掲示され、訪問者や職員の目につきやすい。その理念は利用者の積極的な活動を支援する職員に十分理解されている。	
2	(2)	グループホームなかよし 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R5.5月より認知症カフェを開き、交流の場を設けている。	グループホーム内ではなく隣の集会所で認知症カフェを開催することにより、利用者だけでなく地域の人々との交流が行われている。	既に地域との交流があるが、公的関係機関だけでなく、地域の様々な団体の参加を得て認知症カフェが運営できるよう、一層の発展を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開き、地域の方々と理解を深める活動を始めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日頃のご入居者様の様子をご報告しご意見を頂いている。	定期的に運営推進会議を開催し、議事録もしっかりと残されている。その内容からは意見やアドバイスを多く出され、グループホームの運営に会議が大きな役割を果たしていることがうかがわれる。	コロナの影響もあってか家族の参加が比較的に少ない。開催日時の問題も考えられる。家族にとっては有益な情報を直接知る機会であり、多くの家族の運営推進会議への参加(利用)も検討願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通して協力関係を築けるよう努力をしている。	行政とは適宜連絡を取り、隣(地域)の集会所を利用して運営推進会議を開催し、グループホーム内の状況を報告し協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施し、身体拘束に関して理解を深め周知徹底をするよう努めている。	年間の職員研修計画で身体拘束廃止に関する研修を年2回実施し、職員への理解を深めている。該当する身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、接遇など言葉の面で指摘し合える関係を築く努力をし、身体的には入浴時など全身状態の観察・異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者もいるので、必要時には情報を頂き参考にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、ご家族様に丁寧にご説明し、ご理解、ご納得いただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様への声掛けを大切にし個々の思いの把握に努めている。ご家族様には面会時やメールでの連絡、運営推進会議での意見や質問等を反映するよう心掛けている。	利用者、家族との日常的なコミュニケーションを重視し、意見や要望を聞き取る様に努力をしている。利用者の多くが活動的で自分の意思を表現してくれる関係づくりが出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間中やミーティング時により良い支援が出来るよう意見交換を行っている。	朝番、中番、遅番、夜勤と勤務形態が異なる為に、申し送りノート、日報を活用し全職員での情報の共有化を図っている。夜勤を除く職員は午前10時からミーティングを行い、代表・管理者を中心に情報交換、意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況等を把握・評価し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握しアドバイスをするとともに、研修やミーティングでお互い高めあえる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア会議や推進会議に参加し交流の機会を設けている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時には、より多くお話をしてお本人の意向等を把握できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前から家族・関係者等から情報を聞き取り、不安や要望にお答えできるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向を把握し、早く施設に慣れていただけるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話を大切に出来る事は共にいながら、互いに感謝することでより良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の近況をメール等でお伝えし、ご面会や外出等に対応して双方に安心して頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方の訪問や外出をして頂いている。	馴染みの人たちの施設訪問は少なくなっている。隣の集会所で毎月開かれるオレンジカフェに参加している。カフェで会う人や入居者、施設職員が馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は揃ってリビングで過ごして頂いている。座席やレイアウトの変更などを行い皆さんで関わりあえるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も何かあればご相談いただけるようお話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から出来るだけ御本人の意向を聞き出し希望に沿えるよう努めている。表情等からも読み取る努力をしている。	日々の家事作業やレクリエーションで話される利用者の言葉から、本人の暮らし方や思いや意向を聞き取っている。なにげない表情や仕草からも思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に得た情報とその後の会話の中で得た情報を職員間で共有し、その方らしく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い心身状況を把握している。出来る家事などお手伝いしていただき有する力が継続しさらに向上できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に課題やケアの方法を検討し、関係者にアドバイスを頂きながら計画に反映するようにしている。	職員が数ヶ月ごとに、利用者の個々の記録をもとに介護計画のモニタリングを行っている。課題が生じた場合は、再び本人の希望や家族の意向、かかりつけ医の意見を参考に、介護計画を見直す。不具合が生じた場合も随時、介護計画を見直し、職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に記載し、気づいたことや特記事項は申し送りノートに記入し共有し作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご入居者の状況にあった柔軟な対応をするよう努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者の残存機能を生かし安全に楽しく暮らして頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診療、緊急時の対応も24時間体制である。必要な方には病院受診も可能である。	契約時に、利用者のかかりつけ医をホーム契約の24時間対応型訪問診療に変更して頂き、訪問看護ステーションの利用もしている。本人・家族の希望で在宅時の医療機関を継続通院している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師間でタブレットを利用して状況を共有し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は状況提供を行い、病院と連携しながら安心して施設に戻るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、重度化や看取りの指針についてご説明し、ご理解頂き意向を確認している。	契約時に、重度化した場合や終末期の支援の説明を行う。重度化した時点で、再度、本人・家族の意向やかかりつけ医の意見を聞き、医療行為が必要のない場合は見取りを行う。看取りを担当した職員の心のフォローは上司などが行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡の優先順位に従い、主治医、看護師との連携により適切な対処を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練を行い、消防署参加訓練は準備中である。	事業所から避難場所までの経路を散歩コースにしている。水害時は高台の避難場所が設定されている。職員等の連絡網が無かったために、本社の許可を得てラインで連絡するようになった。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様それぞれに合った声掛け、対応をするように心掛けている。	入浴時は、同姓で支援するようにしている。トイレへの誘導する際の言葉掛けも、さり気なく促している。職員が利用者に対して、心無い言葉掛けをしている時は、職員間で注意をし共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢の提示など工夫し、希望に添える様対応する。レクや政策活動など意見を聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間設定はあるが、個々の希望やペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった清潔な服装で生活して頂いている。訪問美容にてカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態で提供し食事のイベントも行っている。準備や後片付けは、ご入居者と共に行っている。	朝・昼食や行事食などの献立は、利用者の意見を反映して職員が立て、夕食は調理済み食材を活用している。ケーキや餃子作りを手伝ったり、食器の片づけをするなど、利用者が積極的に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー・摂取量・水分量を日報に記録している。個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い、清潔を保持している。訪問歯科と衛生士の訪問で管理と助言を受けている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と個々のタイミングに合わせ見守りや介助を行っている。日中と夜間で対応をかせ状況に合わせている。	昼間は、リハビリパンツを着用しトイレ排泄が基本とし、夜間はテープおむつやポータブルトイレも利用している。1階のトイレの一部の壁をカーテンに変え、風呂場の脱衣所側から車椅子が自由に移動できるように工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取量に気を付け、便秘の予防に取り組んでいる。排便は記録し医師と共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴している。ご本人のペースで入浴・着替えが出来るよう支援している。	週2回、曜日を決めて、入浴支援をしている。入浴を拒む利用者は時間調整で対処する様になっているが、入浴を拒否する方はいない。入浴剤の使用を楽しむ方も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせて対応している。休息したい方はソファーに移動するなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服のチェック、状態の観察を看護師、主治医、薬剤師と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなことに合わせてレクやお手伝いをして頂き、気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や買い物に出かけたり、家族と外出したりと対応をしている。	ホーム周辺の風景に馴染んでもらうため避難場所やお店を盛り込み、60分程度の散歩コースを設定している。最近、他の事業所と一緒に普段は行けない衣料販売店に車で出かけ楽しむことができた。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、お金を預かって施設で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何かの折には手紙を書いたり、電話をして頂いたり支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾と一緒に作ったり季節感を感じられるよう取り組んでいる。毎日の掃除できれいな環境を保ち、居心地の良い空間になる様取り組んでいる。	朝は職員と一緒に掃除で1日が始まる。食後はテーブル席や部屋の周囲に置かれたソファで思い思いに寛いでいる。南に面したお気に入りのリビングで朝から就寝前まで利用者が一緒に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなどレイアウトを工夫し楽しく過ごして頂けるよう心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、愛着のあるものをお持ちいただき、居心地のよい空間になる様対応している。	居室は南向きで備え付けのクローゼットと、利用者の導線を考えてベッドやタンスが配置されている。朝、職員と一緒に掃除をし、整理整頓された清潔感のある寝室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を考慮し、出来る事を無理なく行って頂けるよう支援する。安全面には配慮しつつ過度な介助にならないように努めている。		